

第24回日本臨床スポーツ医学 学術集会

【研修日】 2013年10月26日

【参加者】 中谷拓也 主任
阿部康兵 理学療法士
堤 佳奈 理学療法士
松本賢士 理学療法士

日本臨床スポーツ医学会とは・・・

目的

「臨床スポーツ医学領域における研究の促進と情報交換を図り、スポーツ医学の進歩・普及とスポーツ発展に寄与する事を目的とする」



第24回日本臨床スポーツ医学学術集会

開催日 2013年10月25日～26日

(参加日 10月26日)

開催地 熊本県熊本市

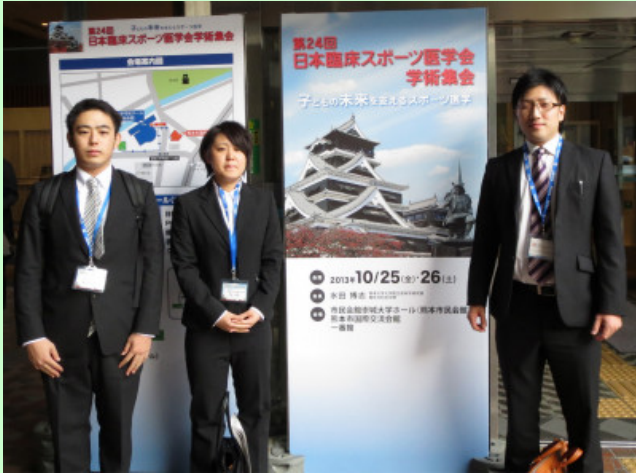
会場 市民会館崇城大学ホール

(熊本市民会館)

熊本市国際交流会館

一番館

会場風景



市民会館崇城大学ホール前



ホール内
(メイン会場)

各会場で様々な研究・症例の発表が行われていました。今回は主に前十字靭帯、半月板に関する発表に参加しました。実際、当院で行われている半月板縫合術において、損傷部位による術式の違いや他院での理学療法プロトコールについて学ぶことができました。

術式に関する知識のなさを改めて実感し、今後さらなる勉強が必要だと感じました。

各会場では、質疑応答で様々な意見交換が行われていました。

解剖学的2束前十字靭帯再建術の 理論とその実際 —術者に必須の最新知見—

演者 安田 和則

座長 松本 秀男

共催 ユフ精器(株)

当院にも以前来院し、手術を施行していただいた北海道大学大学院医学研究科スポーツ医学分野の安田和則教授の講演が行われました。

今回は「解剖学的2束前十字靭帯再建術の理論とその実際-術者に必須の最新知見-」についての発表でした。

解剖学的ACL再建術の際、何を「解剖学的」に再建するのか、そのためにはどこに骨孔を作製すれば良いのかという疑問に対し、安田教授の考える解剖学的ACL再建術とは、実質部線維束の正常な走行(=張力ベクトル)を再建する手術であり、そのための骨孔位置は靭帯実質部付着部の中心に作製すべきとの事でした。

最後に安田教授が話された「最も良い臨床成績を獲得できる手術が良い手術」という信念には感銘を受けました。



口述発表だけでなく、写真のようにポスターでの発表も行われています。
スポーツ、膝に関する研究はもちろん、当院にもある反重力トレッドミル(ALTER-G)についての研究を行っている施設もありました。

中谷主任の発表風景です。
「前十字靭帯再建術までの期間と関節内合併症の関連について」という題材で発表を行いました。決められた時間内に伝えたい事を伝えるのは大変なのだと感じました。



感想

中谷(理学療法士)

今回、私は『前十字靭帯再建術までの期間と関節内合併症の関連について』発表させて頂きました。内容は、前十字靭帯損傷から再建術までに期間が長くなるにつれ、半月板や軟骨損傷を引き起こす確率が高くなっていました。

他施設の先生の発表を聞いて、まだまだ勉強して、医療に対する考えを研磨しなければと痛感しました。また、日頃疑問に思っていることについての意見交換もさせて頂きました。

今回経験したことは、今後の研究に活かしていきます。

阿部(理学療法士)

今回、日本で最大のスポーツ医学会に参加してきました。よりスポーツに特化した発表が行われました。

特に感じたことは、患者さんの気持ち、それに対し、医学を突き詰めることの大切さです。

また、この学会はトレーナーなど医療従事者でない方々も発表し、他職種との関わりのも大切さも学び、一人に対し色々な視点から意見を伺うことができました。今回の学会でも究極の治療は予防だと言葉はとても印象的でした。

私もスポーツをしていたため、患者さんが求めるものをしっかりと受け止め、それに見合う責任感を持って理学療法を提供していきたいです。

今後とも当院でも多くのスポーツをされている患者がおられるため、医学を突き詰め、患者さんにフィードバックして行きたいです。

堤(理学療法士)

今回、日本臨床スポーツ医学学会という大きな学会に初めて参加させていただきました。

ドクターの発表を聞かせて頂き、難しいと感じることが多くありましたが、その分たくさんの知識を得ることが出来ました。

特に印象に残っているのは、競技特性から見た前十字靭帯損傷の予防というテーマです。競技別に見た受傷機転の違いやトレーニング方法を学ぶ事が出来ました。学生時代から行うことで、前十字靭帯損傷の発生リスクを減らす事ができるため、指導という面で、これからもっと多くのことを勉強していきたいです。

松本(理学療法士)

今回、人生で初めての学会に参加してきました。それが日本で最大のスポーツ医学会である日本臨床スポーツ医学会でした。

学会に参加して改めて知識のなさを痛感しました。すばらしい学会に参加しても自分の知識が少なかった為、話の内容について行くことで精一杯でした。内容を理解しながら学会に参加するためにも勉強に励もうと思いました。

学会の雰囲気、発表の仕方、自分の研究へのヒントなど学会に参加しないと学べないこともたくさん知ることが出来ました。今日得たことを今後の活動に生かしていきたいです。

大変貴重な機会をいただきありがとうございました。